

NTT「セット割引」容認へ

「携帯」と「固定」条件付きで

通信業界の規制見直しを検討していた総務省の有識者会議は16日、NTTドコモの携帯電話とNTT東日本・西日本の固定回線を共に契約した場合に通信料金を割り引く「セット割引」を認めることなどを盛り込んだ報告書案をまとめた。ただし、NTTグループだけが有利にならないよう、他の企業と差別しないなどの条件を付けた。

有識者会議が報告書案

NTT東西は年内にも他の企業に光回線の卸売りを始める計画で、企業は光回線を仕入れて医療や教育、警備など自社のサービスと組み合わせて販売できる。両社によると、これまで約300社が関心を示しているという。報告書案はNTT東西の卸売りについて、光回線の利用率を高め、経済成長への貢献も期待できると評価した。

ドコモは、NTT東西の光回線を仕入れ、携帯電話の契約とのセットで割引を始める方針だ。両社の利用者にとっては通信料金が安くなる。

報告書案は、ケーブルテレビ(CATV)会社や

●上半期(4~9月)の首都圏マンション発売戸数の推移



み幅が大きくなっている。1戸あたりの平均価格は5130万円と、1991年(6137万円)以来の高い水準となった。一方で、物件が実際に売れた割合を示す契約率は76.8%と、好不調の分かれ目とされる。

来年3月に開業へ 地上35階建て

住友不動産は16日、東京都心の日本橋で建設中の高さ180mの超高層ビルの概要を発表した。名称は「東京日本橋タワー」で、来年3月に開業する。地上35階、

ハウス食品は16日、即席袋ラーメン「うまかっちゃん」=写真=など、近畿以西全14品出価格発表と西日本で販売している1月16日について、来客希望小売価格を一律5%値上げする。荷分から税抜き希望小売価格を一律5%値上げする。



5%値上げへ

値上げは2008年1月以来、7年ぶり。新興国の需要拡大などを背景にして、小麦粉や油脂などの原材料や包装資材の価格が上昇しているほか、原油の高騰で物流費などの負担が増しているためだ。

「うまかっちゃん」と、近畿や中四国地区で販売する「好きやねん」は1個100円を105円に、5個パック500円を525円に引き上げる。「うまかっちゃん」の13年度の売上高は約57億円。九州・沖縄地区での販売額が約75%を占める。同地区で即席袋ラーメンのシェア(占有率)は首位。

イタリヤ人学者 国際経済講演会

ユーロ危機など語る

イタリヤ人経済学者のロレッタ・ナポレオーニさん(59)が16日、福岡市・天神のアクロス福岡で開かれた。ナポレオーニさんは、欧米のテレビなどで活躍し、著書は世界で読まれているという。「国際経済の展望の分析」をテーマに、ギリ

シャの借金が発端となった「ユーロ危機」などについて語った。

ユーロ危機を巡っては、「ドイツなど豊かな国の資金が貧しい国に流れ、投資よりも消費に使われた。そもそも(欧州単一通貨の)ユーロ導入前に、言語や税制の違いなど解決すべき課題があった」と指摘した。

また、テロ資金などの専門家でもあり、会場から「テロリストから話を聞くのに、身の危険はなかったか」と尋ねられ、「なかった。逆に女性だから(警戒感を持たれず)聞きやすかったのかもしれない」と答えた。

貿易コンサルティング会社・ティサント(福岡市)が、イタリヤ文化会館大阪の協力を得て開催した。



鹿児島島、大分発 バンコク往復便

来月チャーター運航

JTB九州とタイ国際航空は11月26、30日、タイ・バンコクと鹿児島、大分県を往復するチャーター便を運航する。タイと日本でそれぞれ約3000人の集客を見込んでいる。

タイからの観光客は26日、バンコクを出発し、鹿児島空港へ行くチャーター便で来日して両県などを周

経営改善の前提と位置付けられる原発の再稼働を巡っては、高浜原発3、4号機(福井県)の安全審査が事実上終了している。ただ、地元同意など必要な手続きが残り、再稼働の時期はまだ見通せない。

関電の八木誠社長もこれ

参入すると発表した。企業向けの販売も同時に始め、20年に首都圏市場の約1割の獲得を目指す。

経済産業省は地域独占とされている家庭向けの都市ガス販売を自由化する方針で、首都圏の市場は競争激化が予想される。東ガスは顧客基盤を生かして電力事業を収益の柱に育てたいと考えた。

東ガスは現在も火力発電所を持ち、東京電力に電力を販売。発電能力は約130万kWと原子力発電所1基分(約110万kW)を上回る。販売拡大のため、発電所の増設などで発電能力を20年までに約300万kW・hに引き上げる。電力販売では、都市ガスとのセット割引も検討している。

燃料の輸入価格を引き下げるため、広瀬道明社長は16日の記者会見で、東電など他社との共同調達を検討する考えを明らかにした。

遊ぶ。その後、30日に大分空港発の便で戻る。日本からの観光客は26日に鹿児島を出発し、大分を経由してバンコクに向かう。30日の帰国便は、鹿児島経由で大分に到着する。

タイからの訪日観光客増加を受け、日本旅行業協会九州支部とタイ旅行業協会は昨年5月、双方への観光客の集客に協力する覚書を締結。これまでに福岡と長崎からバンコクまでのチャーター便を運航した実績がある。